

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和2年度 兵庫県農業気象技術情報第3号（7月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水 稲	県 北	1 生育 コシヒカリの葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はやや長く、茎数は少ない。遅植えでは葉齢の進展はやや遅く、草丈はかなり長く、茎数はかなり多い。	
		2 栽培管理 分施肥体系の場合、適期に穂肥の施用を行う。	2 栽培管理 適宜、穂肥診断を実施する。
	県 北 以 外	1 生育 葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。茎数は多い。	
		2 栽培管理 中干しを実施する。小ひびが入れば走り水を施し、おおむね10日間程度とする。分施肥体系の場合、適期に穂肥の施用を行う。	2 栽培管理 適宜、穂肥診断を実施する。
全 県 共 通		2 病害虫 (1) イネ縞葉枯ウイルスのヒメトビウンカ保毒虫率は、平均で1.8%と昨年度と同程度であった。しかし、兵庫県西部では依然として保毒虫率が高い地域がみられるので、注意を要する。 6月中旬にセジロウンカの飛来が認められている。本種は「夏ウンカ」として知られており、水稻の生育初期に増殖するので出穂期までの発生には、注意する。 (2) 6月10日頃の葉いもちの発生は、わずかに認めているのみである。今後の気象は、1か月予報によると、気温は高く、平年通り曇りや雨の日が多いと予想されているため、平年並の発生が予想される。湛水直播を行った場合は特	2 病害虫 (1) 本田における初期発病株(葉色が薄くなり巻いて垂れ下がるゆうれい症状を現す)は、感染源となるので、速やかに抜き取る。 初期発病株が多数確認される場合は、後期感染を予防するため、ヒメトビウンカに対する本田防除を実施する。 防除の要点については「水稻、小麦二毛作地域における縞葉枯病防除マニュアル」を参考にする。 http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/shimahagare%20Version%201.01.pdf その他の防除については、「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」を参考に、適正に防除する。 (2) 補植苗は早急に処分する。ほ場をよく観察して葉いもちの発生状況を把握する。葉いもちが発生している場合はただちに防除する。また、強い中干しは避け、穂いもちの防除は穂ばらみ期～出穂直前に実施する。6月上旬～梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合

		<p>に注意が必要である。</p> <p>(3) 管理が不十分な畦畔雑草において、既に斑点米カメムシの発生が確認されている。</p>	<p>センターホームページ上で提供しているブラスタム*によるいもち病の感染好適日の情報を参照する。 http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm</p> <p>(3) 雑草管理ができていない畦畔は、斑点米カメムシ類の増殖場所となるため早急に草刈りを行う。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを本田に追い込むことになり逆効果なので、遅くとも出穂2週間前までに畦畔の草刈りを完了させる。薬剤防除は乳熟期から糊熟期までに行う。</p>
大豆	全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>「サチユタカ A 1 号」の栽植密度は、播種適期の6月下旬～7月上旬では8～12株/m²とし、播種が7月中旬になれば20株/m²の密播とする。 播種直前に耕うん、砕土を丁寧に行い、播種する。 明きょ等の排水対策を必ず講じる。 中耕培土を行う場合は、除草を兼ねて早めに行う（目安は本葉3葉期以降）。2回実施するのが理想的である。</p>	
		<p>2 病害虫</p> <p>(1) フェロモントラップでは、ハスモンヨトウ成虫の例年より早い時期から誘殺数の増加がみられている。</p> <p>(2) 今後、雨が多く、かつ平年より気温が高く推移すると予想されているため、茎疫病の発生に注意を要する。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 生育初期での幼虫の発生は被害が大きくなりやすいので、「病害虫発生予察情報」「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」を参考に、速やかに、かつ適正に防除する。</p> <p>(2) 黒大豆の茎疫病の常発地では、排水対策を徹底する。</p>

※ブラスタム:葉いもちの発生予測システム。気象条件から感染を推定し、発生時期を予測する。
 毎週月曜日に更新。

作物	地域	栽培上の留意点	対応策										
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 目標とする収穫時期に応じた播種時期を守る。</p> <p>(2) 高温期の育苗のため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。</p> <p>(3) セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(4) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>(5) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p> <p>2 病害虫</p> <p>フェロモントラップでは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウ等ヨトウムシ類成虫の誘殺が多い傾向が続いており、今後の幼虫の発生と被害に注意する。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 地域の暦に従って種子、育苗資材等の準備を進める。</p> <p>(2) ベンチ等での浮かし育苗に努め、苗が徒長しないよう夕方のかん水を控える。発芽後、子葉の奇形など異常のある苗は取り除く。</p> <p>(3) 早めに液肥を施用する。</p> <p>(4) 高畝栽培とし、明きょ等の排水対策を徹底する。</p> <p>(5) 土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分にかん水し、活着を図る。</p> <p>病害虫の発生がみられる場合は、「病害虫発生予察情報」「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>										
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>雨水がすみやかに園外に流れるよう、明きょや排水溝の掃除等の排水対策に努める。高温少雨が続く場合は、かん水設備や敷き草などで乾燥防止対策を実施する。また、早めのかん水を行う。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>クリ※¹</td> <td>開花期は昨年比で2日遅く、平年比で1日早い。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ※¹</td> <td>開花期は昨年比でやや早く、ほぼ平年並み。</td> </tr> <tr> <td>ナシ※²</td> <td>生育は昨年比で1日早く、平年比で1日遅い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク※¹</td> <td>発芽期は平年比で7日早い。着果始めは平年比で5日早い。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン※³</td> <td>生育は昨年比で9日遅く、平年並み。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 加西市 ※2 朝来市 ※3 南あわじ市</p> <p>2 病害虫</p> <p>果樹カメムシ類の発生が多いので、ナシ、モモなどで注意する。</p> <p>ナシでは、6月の調査で黒斑病が平年並み、その他の病気は少ない。</p> <p>6月上旬では、カンキツの病害虫の発生は少ない。</p>	クリ※ ¹	開花期は昨年比で2日遅く、平年比で1日早い。	ブドウ※ ¹	開花期は昨年比でやや早く、ほぼ平年並み。	ナシ※ ²	生育は昨年比で1日早く、平年比で1日遅い。	イチジク※ ¹	発芽期は平年比で7日早い。着果始めは平年比で5日早い。	温州ミカン※ ³	生育は昨年比で9日遅く、平年並み。	<p>園地での発生状況を観察し、必要に応じて適期防除を行う。果樹カメムシ類については病害虫発生予察注意報第1号 (http://hyogo-nourin.suisangc.jp/chuo/bojo/02tyuuihou1.pdf) を参照すること。また、雨で発生が助長される病害等にも留意し、降雨の合間を見て適期防除に努める。</p>
クリ※ ¹	開花期は昨年比で2日遅く、平年比で1日早い。												
ブドウ※ ¹	開花期は昨年比でやや早く、ほぼ平年並み。												
ナシ※ ²	生育は昨年比で1日早く、平年比で1日遅い。												
イチジク※ ¹	発芽期は平年比で7日早い。着果始めは平年比で5日早い。												
温州ミカン※ ³	生育は昨年比で9日遅く、平年並み。												

◎水稲・麦・大豆の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。

※本情報は、6月25日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（6月27日～7月26日）

[令和2年6月25日 大阪管区気象台 発表]

<予想される向こう1か月の天候>

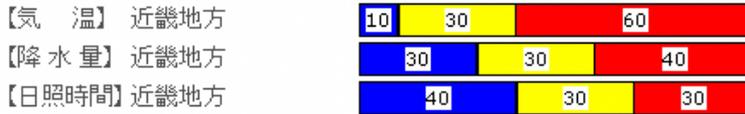
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

(2) 近畿地方の向こう3か月予報（7月～9月）

[令和2年6月24日 大阪管区気象台 発表]

<予想される向こう3か月の天候>

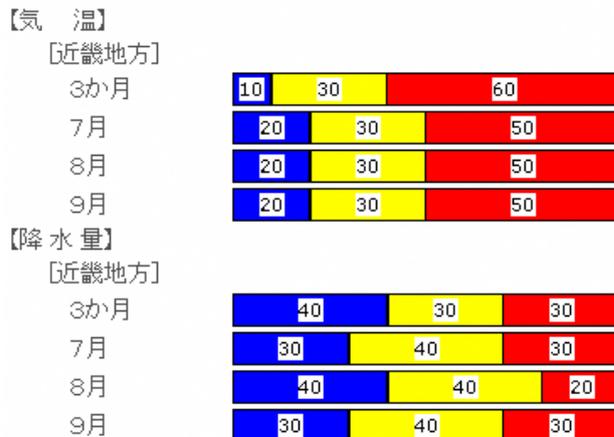
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病虫害発生予察情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班: 主作・機械担当 内線 4069
農産班: 野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病虫害部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)